

はじめに

森林経営管理制度は、森林所有者自らでは経営管理できない森林について、市町村が森林所有者から経営管理を受託した上で、林業経営に適した森林は、林業経営者に再委託し、それ以外の森林は、市町村が自ら管理するという形で、集積・集約化を図る仕組みです。

令和元年度からスタートした本制度は、5年が経過し、各市町村では、課題の解決に向けて様々な工夫や改善が行われ、他地域の参考となる成果やノウハウが蓄積されつつあります。

そこで、林野庁では、「みんなで選ぶ森林シューセキ! Award」として、森林経営管理制度に係る全国各地の取組事例を広く募集し、他地域の参考となる優良事例の表彰を行いました。

本 Award には全国23団体から応募があり、選定委員会を経て、大賞候補として7団体が選定されました。選定は、①森林整備推進への貢献度、②制度運用の方針や計画の明確性、③継続性や波及効果、④地域の連携力、⑤チャレンジ性、という5つの観点から行われました。

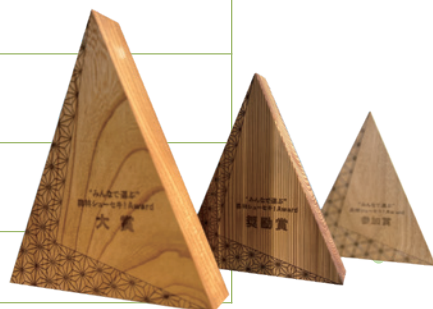
「みんなで選ぶ森林シューセキ! Award」を開催しました

“みんなで選ぶ”森林シューセキ! Award 応募団体一覧

1	北海道札幌市	13	岐阜県郡上市
2	岩手県	14	三重県松阪市
3	宮城県 (宮城県市町村森林経営管理サポートセンター)	15	京都府 (京都森林経営管理サポートセンター)
4	宮城県大崎市	16	和歌山県有田川町
5	秋田県能代市	17	島根県 (森林経営推進センター)
6	秋田県由利本荘市	18	島根県邑南町
7	秋田県五城目町	19	徳島県美馬市・つるぎ町 (一般社団法人やましごと工房)
8	山形県山形市	20	愛媛県宇和島市・松野町・鬼北町 (愛媛県森林管理支援センター)
9	埼玉県小鹿野町	21	愛媛県久万高原町 (中予山岳流域林業活性化センター)
10	新潟県上越市	22	熊本県御船町
11	福井県福井市	23	鹿児島県鹿児島市
12	山梨県富士吉田市		

森林シューセキ! 事例報告会 (大賞候補7団体による報告)

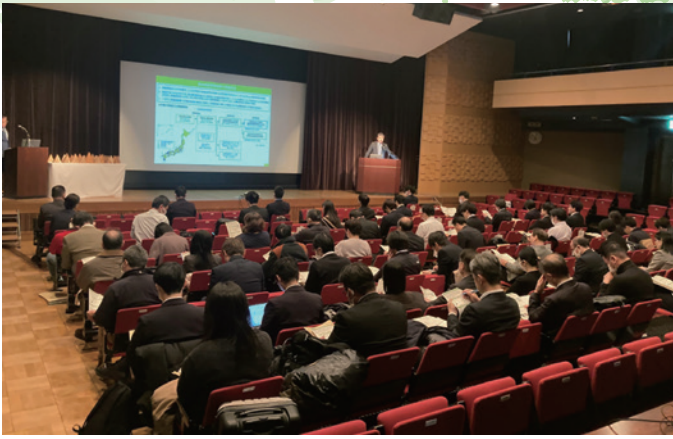
報告地域・団体	報告タイトル及びポイント
やまがたし 山形県山形市	「実施方針の策定とドローンを活用した事業の取組について」 ・モデル地区で課題を整理し、事業実施方針を策定 ・ドローン活用による森林境界確認 ・ドローンによる詳細情報から林業経営の適否判断
さっぽろし 北海道札幌市	「森林経営管理制度の事業を効率的効果的に進めるための取組」 ・基本方針、運用指針を策定し、事務を省略化 ・配分計画による森林整備のための各種支援 ・制度事業で生じた間伐材を小学校の図工授業に活用
くまこうげんちよう 愛媛県久万高原町 (中予山岳流域林業活性化センター)	「林業の町ならではの森林経営管理制度の推進」 ・大学と連携し、町内民有林全域の意向調査完了 ・集積計画の対象森林の見直し ・新設した第3セクターとの連携と担い手育成
かごしまし 鹿児島県鹿児島市	「林業経営に適さない森林を稼げる森林にするために」 ・意向調査の工夫 ・現場条件に応じた様々な歩掛の設定 ・計画的な事業発注による担い手の確保、育成
うわじまし まつのちよう きほくちよう 愛媛県宇和島市・松野町・鬼北町 (愛媛県森林管理支援センター)	「連携による円滑な制度推進」 ・3市町を1つの流域として連携体制を構築 ・業務フローのシステム化 ・林業事業者への幅広い情報提供及び発注の工夫
ありたがわちよう 和歌山県有田川町	「有田川町における森林経営管理制度の取組」 ・GIS上での一元的なデータ管理 ・意向調査等の委託業務の契約単価を見直し ・担い手確保に向けた入札の工夫や支援策の実施
じょうえつし 新潟県上越市	「地域の課題解決に向けた取組の展開」 ・スマート林業の技術の積極的な活用 ・大型有害鳥獣が出没しにくい環境づくり



応募団体に贈られた国産樹種を活用した記念品

大賞候補の7団体については、令和7年1月29日に星稜会館ホール（東京都千代田区）にて開催した「森林シユーセキ！事例報告会」において、それぞれの取組事例を報告いただきました。

本事例報告会は、全国の自治体等による森林経営管理制度の取組事例を共有する機会として、林野庁の主催で令和元年度から毎年度開催しており、今回は、現地参加（発表関係者含む）とオンライン参加を合わせて計700名以上に参加登録いただきました。報告会では、事例報告と合わせて、林野庁から、森林経営管理制度の取組状況や制度の見直し等に係る最新情報の提供を行いました。



7団体の皆様からは、都道府県や地域関係者との密な連携による制度推進、評価マトリクスを用いた対象森林の優先付け、回答率を上げるための森林所有者への意向調査の工夫、デジタル技術を活用した境界明確化、森林整備に係る現場条件に応じた歩掛の設定、担い手の確保・育成に向けた発注方法の見直しなど、同制度の運用にあたっての具体的知見やノウハウが共有されました。

また、自らの取組の特色に加え、実際に取り組んだ際に、うまく行かなかったところをどのように改善したかなども言及があり、参加者からは、「成功事例だけではなく、反省点も聞くことができ勇気づけられた」、「課題解決のヒントが得られた」などの多くの反響がありました。

事例報告会の開催後、応募団体等による投票を行い、大賞は北海道札幌市に決定しました。本稿では、北海道札幌市の取組事例について紹介します。

○大賞（北海道札幌市）「森林経営管理制度の事業を効率的・効果的に進めるための取組」

札幌市は、林業になじみのない都市でしたが、本制度の森林経営管理制度の運用開始を機に、本制度を活用した私有林の整備に取り組んでいます。取組を進める上で明らかになった課題を基に、本制度に係る運用方針を明確にし、直近10年以内に森林整備が行われている人工林に加え、森林整備を行わずとも早期に針広混交林化する可能



性が高い人工林を経過観察林として対象外にするなど、市独自の絞り込み等を行うことで、事務の省力化を図っています。

加えて、森林整備を行う上で「利益がない場合には、森林所有者から経営管理の委託に係る同意を得られにくい」という課題に対しては、間伐材で作成した木工キットを市内小学校の図工の授業で使用することで、自身の森林を社会貢献に活かすことができるという、利益以外の動機づけを創出し、森林所有者の理解を得やすくなる工夫を行っています。

また、木工キット付属のQRコードから、市職員が自作した、林業について学べるミニゲームにアクセスできるようにし、家庭で大人と一緒に学習する仕組みによって、林業の普及啓発にも努めています。

おわりに

森林経営管理制度の開始から丸5年が経過し、各市町村・地域では、森林の集積・集約化や整備に向けて様々な創意工夫が行われていますが、森林・林業に係る市町村の体制は必ずしも十分ではありません。

林野庁では、引き続き、①市町村職員、市町村を支援する都道府県やサポートセンター等の林業技術者を対象とした研修の実施、②市町村が林業技術者を地域林政アドバイザーとして雇用する取組等による体制整備の推進、③全国の様々な取組事例の収集や横展開などにより、市町村の取組を支援してまいります。



当日の発表資料はこちら
<https://www.rinya.maff.go.jp/j/keikaku/keieikanri/sinrinkeieikanriseido.html#3.3>



各団体の応募資料及び報告会当日の発表資料については、林野庁ウェブサイトに掲載しています。是非ともご覧ください。